会議議事録

|  |  |
| --- | --- |
| 事業名 | 令和2年度「職業実践専門課程等を通じた専修学校の質保証・向上の推進」  （２）教職員の資質能力向上の推進①効果的な教育成果②教職員研修プログラムの構築 |
| 代表校 | 一般社団法人全国専門学校教育研究会 |

|  |  |
| --- | --- |
| 会議名 | 第4回ICT活用研修WG |
| 開催日時 | 令和3年1月29日（金）　10時00分～12時00分 |
| 場所 | オンライン会議 |
| 出席者 | 事業責任者：高岡　信吾  委　　　員：猪俣　昇、岡村　慎一、岩切　直子、合田　美子、岩﨑　千鶴  長瀬　あゆみ、中田　明子　　　　　　　　　　　計 8名  請負業者：飯塚　正成　　　　　　　　　　　　　　　　　　 計 1名  　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　 合計 9名 |
| 議題等 | 1. アウトプットの品質とボリューム・調査によって得られた知見（猪俣）   ・調査報告書は現在完成度8割、約200ページとなった。  ・インタビューに関しては12月2日から1月12日まで、計12名実施。  ・一部現地訪問ができたが、ほとんどがオンライン面談となった。  ・アンケートに関しては200校に依頼、108校から回答を得られた。  ・各インタビューの冒頭の3つの質問と9、10で要約を掲載している。  インタビューでは様々なICTの活用事例を収集することができた。  　【インタビューに関する主なキーワード】  ①マインドセット（現実、未来の理解）  　若者の教育への価値観の現実  　大人の・・・  　コミュニケーション  　パワハラ、アカハラ  ②授業ストーリー作り＋スライド（教材作り）の上手い下手  　ID、応用行動分析学、ドラマツルギー、マイクロラーニング、映像教材  　ディプロマポリシーからの逆算  ③伴走  　事前の教示、事例を知る、ケーススタディでトレーニング  　コーチング、認知心理学、行動応用分析学、SEL、心理的安全性  　ピアラーニング、学生の自治  　先生自身が自分が好きな事を心から信じてとことんやっている人かど  うか（人としての本気度）  　即時フィードバック  ④学校が提供する成果物  　知識、教科書の内容　⇒　興味開発、継続的に自調自考出来る習慣  ⑤記録・分析・評価  　AI、レコメンデーション？　⇒研修では無理！？  　ルーブリック、面談・観察で学生の現状を知る  【インタビューに関する主な論点】  ①授業内外の両方の面から見る必要がある。  授業（「教える」の部分）がどんな素晴らしくても、自習しないと定着  しない。  ②学力について  学力、学力以外の認知的能力と認知能力の面から見る必要がある。  【調査報告書についての意見】  ・マトリックスがあると良い。（猪俣）  ・前半のアンケート部分は特徴的な部分を追記するのかと思うが、後半の  ヒアリング、もしくは最後のまとめで共通課題などが記載されるといい  のではないかと感じる。（岩切）  ・キーワードを盛り込んでいくと分かりやすいのではないか。（岩﨑）  ・まとめをもう少し細かく見ていく必要がある。研修を前提にした時に何  をフォーカスするのかによってまとめると来年度に活きると思う。  また、授業内外については、①授業の準備 ②授業実施（内外含め）③  授業の効果・改善が出てくると結果が扱いやすい。マトリックスを作る  と全体像が出て、研修内容に繋がってくると考える。（合田）  ・これからは教えることと同時にサポートが必要だと感じる。専門学校生  は直接教えてもらいたいという学生が多いので、ICTを活用した授業  で、どのようにフォローしていくのかを盛り込んでいく必要があると感  じる。また、授業コンテンツを作成するにあたり、授業外の公務の負荷  など現状の課題を考慮したほうが良いと感じる。（長瀬）  ・各学校でのITツールの使用状況の一覧などがあると良い。アナログ部  分とIT部分を分けて考えたい。（中田）  ・それぞれの学校の学生のニーズによって目的・目標が違う。学校によっ  　て特色に応じた目標達成への工夫がされているので、学校種ごとの分類  が必要だと感じる。その上で専門学校での活用方法を提案できれば、研  修もやりやすいのではないか。また、中田さんが言ったITの部分を明  確にすることも必要。長瀬さんが言ったような課題をICTの活用でど  のように負荷を減らしてしていくかなど提案できると良い。（高岡）  ・学生の個別対応にICTをどのように活用していくか、というところを考  慮すると、研修では「学習者それぞれに対してどのような教育をしてい  くのか」が焦点となる。学習者特性の分析、学習攻略・教育方法（アプ  ローチ方法）を提示できると教授法になり教員のスキルになるかと考え  る。報告書としてはあまり加工しないほうが良いと感じる。分析結果は  次年度の活動の方向性を見るためにも、ICT活用WGとして別途実績報  告として作成したほうが良いのではと感じる。（岡村）  ・当会でも遠隔授業に関するセミナーを実施し、ノウハウの共有をしてい  るが、現状では授業の特性を把握した上でICTを活用されている教員  は少ない。授業など教育のためのものと、コミュニケーションを取るた  めのものと2つのアプリケーションが必要だが、教員自身の特性を活  かしたアプリケーションを見つけることが大切となる。またオンライン  授業の改善、PDCAを回していると、検定の合格率、学生の満足度は高  くなるという分析結果があるので、マトリックス作成時の参考にしても  らえればと思う。報告書については岡村先生と同意見。（飯塚）  ・調査報告書に関してはSlack上で意見交換をしていく。（猪俣）  ・次年度の活動、研修内容の方向性を見極めるために、調査結果報告書と  は別にWGでまとめた分析結果を含めた実績報告が必要。（岡村・飯塚）  ・2月19日までに調査結果報告書、2月末までに委員の皆さんの意見を  元に分析結果のアウトライン作成、次回WGで最終的な決済とする。ま  た、成果報告は映像配信となる。3月12日までにUPが必要。（猪俣）   1. 第5回ICT活用WGの日時の確定   ・2月18日（木）10：00～12：00  福岡で対面開催（オンライン併用）を予定するが、状況によりオンライン  開催とする。 |
| 配布資料 | ・調査報告書\_20210128 |

以上